

【詩の部】

※作品内の表現については原文のまま掲載しています。

小学校 最優秀賞

「まるになあれ」

第一小学校 2年 浅利 樹輝さん

ぼくは自分の気持ちをつたえるのがにがて
言いたいことがたくさんあっても
いきなり聞かれると
頭の中で考えてることがぐーるぐる
ぜんぜんうまくまとまらない
ことばより気もちが先にきて
なみだがでてしまう時だってある

でもわらってやさしい声で
じっくりゆっくり聞いてもらえた
頭の中のぐーるぐるはひとつまるになって
自分の気もちをはっきりことばにできる

ぐーるぐるはぼくだけじゃなくて
みんなにもあるとおもう

おたがいにじっくりゆっくり聞いてあげたら
みんなのぐーるぐるは
きっとおおきなまるになる

じぶんの気もちをきちんとつたえたい
あいての気もちをちゃんと知りたい

頭の中のぐーるぐるをまるにするやり方
もっと上手にできるようになりたいな

ぼくのぐーるぐるも
みんなのぐーるぐるも
おおきなおおきなまるになあれ

小学校 優秀賞

「わたしのすきなひと」

第一小学校 1年 仲谷 朋恵さん

すきなひとがいるよ
たくさんいるよ
おともだち せんせい
かぞく ねこ
すきなところがたくさんあるよ
やさしいところ
わらっているところ
げんきにあそんでいるところ
おはなししていてたのしいところ
すきだから
はなれることをそうぞうすると
なみだがでてくる
おおきくなってもみんなとあそびたいから
みんながわらっているとうれしいから
わたしはみんなをたいせつにするよ

小学校 優秀賞

「ぼくのおとうと」

第一小学校 2年生 青木 大さん

おとうとはダウンしょう
まだまだはなせない
でもかおでしゃべる
あるくのもおそい
でもだれよりもやわらかい
からだが小さい
けれどもえがおはまんてん
できることはみんなちがう
おとうとのできることもみんなちがう
じまんのおとうと
大大大好き♡

中学校 最優秀賞

「平和っていいね」

日根野中学校 1年 重里 日向葵さん

平和っていいね
おふろに入ることが出来る
静かに寝られる
帰る家がある

平和っていいね
勉強が出来る
字を書くことが出来る
絵だって書ける

平和っていいね
友達と遊ぶことが出来る
アイスも食べれる
ごはんもたくさん食べれる

平和っていいね
空からなにかが降ってくることがない
なにかにおびえながら寝ることがない
じゅうで撃たれることがない

平和っていいね
学校に毎日通えること
家族や友達とゆっくり喋ること
旅行にも行ける

平和っていいね
なにかを失うことがない
物が買えないことがない
電気を使える

平和っていいね
働くことも出来る
お金もらえる
ペットだって飼える

平和っていいね
戦争のこわさを知ることが出来る
お墓参りに行ける
先祖感謝出来る

平和っていいね
お祭をひらいて、行くことができる
友達と写真を撮ることもできる
習い事にも行ける

平和っていいね
悲しいことがあれば相談できる
熱がでても看病してもらえる
人に優しくできる

平和っていいね
家族に感謝できる
人を愛すこともできる
ペットを愛すことができる
地球に感謝できる

中学校 優秀賞

「小さな世界」

佐野中学校 1年 長島 宗佑さん

18人だった僕の世界
150センチから見ていた僕の世界
商店街をこえることができなかつた
僕の世界

僕は12歳になった
世界が変わり始めた

200人以上になった僕の世界
160センチから見ている僕の世界
毎日商店街をこえて走る僕の世界

色々な人がいる
見上げていた母を見下ろしている
見えていなかつた新しい景色

僕ができないことを簡単にできる人がいる
僕ができるとできない人がいる

いつも元気な人がいる
いつも大人しい人もいる

いつも見ていた高さと景色が変わると
知らなかつた人々の世界が僕の世界に
入ってきた

僕の世界が広がりつづけると
もっと人々の世界が僕の世界に
入ってくるだろう

僕だけの小さな世界は
広がって
広がって
みんなの大きな世界になるだろう

中学校 優秀賞

「自分」

新池中学校 2年 柳父 沙月さん

みんなと同じ私
みんなと違うわたし
明るい私
暗いわたし
みんなの知っている私
みんなの知らないわたし
わたしが知っているわたし
わたしが知らないわたし
全部ワタシ
世界にひとりだけ
大切な自分

みんなは優しい
違うわたしを否定しない
でもなんか、あれっみたいな
そんな空気が
嫌で
居心地悪くて
気持ち悪くて
隠れちゃったわたし
臆病で
弱虫で
意気地なして
大嫌いな自分

他の国にいきました
わたしを知っている人がいなくて
わたしに「私」を押しつけない
そんなところにいきました

ちょっとおっきくなった視野で
ちょっとおっきくなった世界を見つめて
ちょっとおっきくなったワタシを見つめて
もっとおっきくなる世界に期待して
私
わたし
ワタシ
いろんな自分
ちょっとだけ
ちょっとだけでも
認めてあげて
背中のおっきな荷物
みんなで持てたらな、なんて
そんなことを考えた
八月二十四日だけの
特別なワタシ
